

文部科学省

外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議

「英検Can-doリスト」作成上の配慮と 「CAN-DOリストの形で」について

2012年8月28日
公益財団法人 日本英語検定協会
制作部アドバイザー 柳瀬和明

内容

「英検Can-doリスト」の作成過程を踏まえ、本検討会議の趣旨にお役に立てそうな点を整理する。

- 「英検Can-doリスト」の概要と意義
- 「英検Can-doリスト」における能力記述文作成上の配慮
- 「CAN-DOリストの形で」（提言1）について

1. 「英検Can-doリスト」の概要

(1) 調査対象者・手法

2003年から2004年の各級合格者（合格直後）を対象として、技能別の能力記述文に対して、5段階で自信の度合いを調査

(2) 調査規模

3回にわたる大規模調査（20,279人）

(3) 分析・リスト化

統計的な分析手法に基づき、級別に自信の度合いの高い能力記述文を表示

2006年の公開以来、多方面で利用
（例：学校での「...できる文」の作成資料、自己評価 など）

2. 「英検Can-doリスト」の意義

- (1) 級ごとに合格者が英語のできる[可能性の高い]ことを明示
- (2) テストとの関係で「結果の解釈」をより具体的に表示
- (3) 学習者が「今の英語力」と「目指す英語力」を具体的に把握

初級から上級までの技能別能力記述文

3. 能力記述文作成の主な参考資料

- ① 中学校学習指導要領(1998)
- ② 中学校各種英語検定教科書
- ③ 高等学校学習指導要領(1999)
- ④ 高等学校各種英語検定教科書
- ⑤ 文部科学省(2003) 『中学校・高等学校教員へのアンケート』
(英語教育に関する研究第一グループ)
- ⑥ 英検各級のテスト課題
- ⑦ ACTFL Proficiency Guidelines
- ⑧ ALTE Can-do Statements
- ⑨ Canadian Language Benchmarks
- ⑩ Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)
- ⑪ Dialang Self-assessment List
- ⑫ TOEIC Can-do Guide

4. 能力記述文作成上の配慮

- (1) 幅広い年齢層に対応できる表現
 - ・ 年齢によって異なる生活環境（例：生徒と社会人）
- (2) 具体例の提示
 - ・ 能力記述文の解釈の一助
 - ・ タスク化の一助
- (3) 日本における英語教育、英語学習の反映
 - ・ 学習指導要領の文言を「…できる文」に書き換え
 - ・ 各種教科書でのタスクを文言化
- (4) 熟達度の違いを象徴する表現の取り込み
 - ・ 複数のCan-doリストにおける能力記述文の検討

5. 「CAN-DOリストの形で」について ①

学校に求める「CAN-DOリストの形で」とは
どういうものか。

（「CAN-DOリストの作成」との違い）

＜「提言1」の解釈の幅＞

- (1) 「提言1」は各校でCAN-DOリストを作成するという
ことで、そのためには詳細な検証作業が求められる。
（作業の複雑さに対応できるかどうか不安）
- (2) 「…できる文」を書くだけでCAN-DOリストになる。
（「目標」と「CAN-DOリスト」を同一視）
- (3) 「提言1」のイメージがつかめない。
（求められているものがよくわからない戸惑い）

6. 「CAN-DOリストの形で」について ②

形式の提示

「学校は、学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定」によって、本検討会議と文部科学省が想定している形式を具体的に提示してはどうか。

(例)

- (1) 記述の枠組みをどうするか。
 - ・時間枠（学期別、学年別）
 - ・技能枠（4技能別、技能統合型）
- (2) 「…できる文」の数の目安はいくつか。
 - ・個々の「…できる文」の検証をどこまで求めるのかとの関係

7. 「CAN-DOリストの形で」について ③

「…できる文」を書く上での留意事項

(例)

- (1) 1つの「…できる文」には1つの要素
- (2) 必要に応じて条件をつけることも可
(例：ゆっくり話してもらえれば、…)
- (3) 学習指導要領との関係
- (4) 学校での学習活動の反映
(授業活動の取り込み、教科書・教材との関連)
- (5) 教室内から教室外への「橋渡し」
(実生活での言語使用の反映)
- (6) 熟達度の違いを象徴する表現の取り込み
(簡単な、短い、要点の理解、詳細の理解 など)
- (7) 公開されているCan-doリストの能力記述文の活用

8. 「CAN-DOリストの形で」について ④

「…できる文」の達成度と科目としての評価・評定との関係

- (1) 「…できる文」の達成度を検証するとした場合の手順の明確化
 - ・ 求める検証の程度
 - ・ 検証の場面（定期考査、課題提出、発表活動 など）
 - ・ タスク化の手法（教科書等の利用、独自のタスク化）
 - ・ 達成度の評価方法（評価基準の作成、達成度の判断 など）
 - ・ 達成度の低い「…できる文」の扱い
（学習到達目標としての扱いとCAN-DOとの違い）
- (2) 個々の「…できる文」の評価（達成度）と科目としての評価、評定との関係の説明
 - ・ 評価、評定への反映のさせ方の例

9. 「CAN-DOリスト形で」について ⑤

国によるCAN-DOリストの提示

国として、裏づけのある指標（CAN-DOリスト）を提示することで、各学校はそれを踏まえた学習到達目標を設定することができる。（例：CEFR-J）

- ・ 学習指導要領との関係の整理（位置づけの確認）

10. まとめ

＜本検討会議で取り上げていただきたい点＞

1. 「CAN-DOリストの形で設定」の明確化

「学校は、学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定」の解釈が、地域あるいは学校によってかなり異なっている。

2. 形式の例とそこに至る手順の提示

「提言1」に取り組むための留意点と手順のサンプルを示す。

3. 科目の評価・評定との関係

「CAN-DOリストの形」で示したものの達成度と科目としての評価・評定との関係の説明

4. 国によるCAN-DOリストの提示

学習指導要領との関係の整理